



馬頭町広重美術館 友の会ニュース〈第6号〉

風の色



歌川国芳「二十四孝童子鑑 孟宗」
にじゅうしこうどうじかがみ ほうそう

弘化(1844-48)初期 馬頭町広重美術館蔵

このところ美術館の中庭では、「金明孟宗竹」が初冬の寒さに耐えその葉を震わせていますが、その「孟宗竹」の名の由来を描いた作品をご紹介します。

幕末期に活躍した浮世絵師歌川国芳による「二十四孝童子鑑」は中国に伝わる、孝を尽くした24人の物語を描いたシリーズ。そのなかで、孟宗と竹にまつわる伝説を主題としたのが本作品です。

病身の母親が冬に筍たけのこを食べたがったため、孝行息子の孟宗は竹林へ出かけていき、筍を探します。しかし季節はずれの冬に筍が生えているはずありません。嘆いていると、彼の孝心に感じ入った仏の霊力によって地中から筍が現れます。それを持ち帰った孟宗は、無事筍を母親に食べさせ、彼女の病気を癒やしたのでした。

以上がその伝説ですが、ここでは吹雪舞うなか、鉾くわを片手に竹林へと向かう孟宗の姿が描かれます。現在では黒くやけてしまっていますが、全体に雪を表現する胡粉こふ貝殻から作られる白色顔料が散らされています。

ところで、本シリーズの広告には「お子さまがたへのおみやげに是に過たる物はなし」とあります。それにしてもややかたい題材だな、と感じる方もいらっしゃるかもしれません。実はこのシリーズが制作された数年前、天保13年(1842)から、老中水野忠邦による天保の改革によって浮世絵の出版が厳しく取り締まれるようになります。そのため、版元若狭屋としても幕府を意識した道徳的な主題「忠孝」にせざるをえなかったのでしょう。しかし国芳はただ「忠孝」を奨励する作品にしたわけではありません。本作品ではそれほど強調されていませんが、このシリーズは全体的に洋風表現が取り入れられ、風景画としても鑑賞できるような新鮮味溢れる作品に仕上がっているのです。そうした時代背景に思いを巡らして作品を鑑賞すると、また新たな魅力が浮かび上がってくるのではないのでしょうか。

*この作品は2月5日(木)から開催される「青木コレクション 国芳とその弟子たち展」に出品されます。

ボランティア旅行に参加して

ボランティア 小室 勝代(馬頭町)
私達広重美術館ボランティアは、活動を始めてから今年で三年になります。今回初めてボランティアの研修旅行が日光方面、小杉放庵記念日光美術館方面にて実施され、参加させていただきました。ボランティア仲間でも活動曜日が違うため、普段顔を合わせることが殆どなく、交流を深める良い機会でした。

美術館を出発した時は、まずまずの天候でしたが、日光美術館に着いた頃には曇天となり今にも降り出しそうな気配でした。日光美術館では、建物や絵の説明をしていただき、いつもとは立場が違い側になりました。



小杉放庵記念日光美術館前にて

した。若い芸員さんの説明を聞きながら、勉強不足を深く感じました。又、時にはギャラリーを利用して、コンサートを開いているとのこと。ラジオでコンサートの催し案内を聞いたことがあり、広重美術館でもそんなことが出来たら素晴らしいのではと思います。

金谷ホテルでの昼食会では、大正時代のコロッケを味わい、和気あいあいの中であつという間に過ぎてしまいました。ホテルを出ると外は大雨になっており、急遽予定を変更し、日光東照宮美術館へ行くことになりました。雨宿りと時間調整を兼ねての見学に思いがけず、ゆつくりと鑑賞することが出来ました。杉戸絵、襖絵と手入れの行き届いた庭園、時代の様子を垣間見たひとときでした。この様な流れで研修旅行は行われ、帰りには雨も上がり、楽しい一日となりました。

「千葉市美術館所蔵の浮世絵」 記念講演会に触れて

友の会会員 阿久津 忠(宇都宮市)

浮世絵との出会いは千葉であった。千葉市美術館には、東京を経由して三角形の二辺を辿ってはるばる出かけていった。もともと我々の先人の推し進めた文化であつたはずのものが、海の向こうに渡った逸品。それ

を我々の眼にと企画してくださったのが千葉市美術館。「帰ってきた浮世絵」。流出し国内にない浮世絵の一級品の数々だったと思う。

今回は、千葉市美術館館長の講演とあつて出かけることと決めていた。専門家の目で浮世絵を分析解説いただいたのと、その目で、考え方で収蔵された会場いっぱい作品を見ることができた。真贋を説かれ、版の価値を説かれて、さて改めて展示を見ても皆目理解していない。だが、居ながらにして専門家の目になる収蔵の作品群を見ることが出来る。先回の千葉行とは違う。何度でも見られる。

原稿を書いている内に、後期の展示となった。広重美術館に急ごう。

浮世絵からいつも思うこと。風景風物の変わりようを…自然破壊に…つながらるものが多すぎる。



千葉市美術館館長 小林忠先生による記念講演会

「浮世絵のたのしみ」

友の会会員 上田 恵子(宇都宮市)

浮世絵の中から「江戸」の人たちは、四季の風景の美しさ、時節の行事の楽しさ、闇の中に存在する物又、物に宿る魂のある事等、今を生きる私たちが、心の何処かにしまい込んで忘れていた事に「そろそろ気付きなさい」と語りかけてくる。

馬頭町広重美術館は、開館3周年にして入館者数25万人を超えたとの事だが、その中に、こんな「江戸へのタイムトリップ」を楽しんでおられる方も、少なからずではないだろうか。

今回、千葉市美術館館長小林先生の記念講演をお聴きして、新たな浮世絵の魅力を発見し、益々観る楽しさが増えた。それは、浮世絵の「超劇的運命」である。

その生立ちは、將軍から一般大衆までと、幅広い人々のニーズに應じて生まれ、時代や人々の生活と共に成長した。しかし、文明開化の声に、突然日本での生活が閉ざされる事となり、「赤い靴」の女の子宜しく「異人さん」に連れられ、異国での生活を送ることとなった様である。今私たちが観ているものの多くは、バブル期に買い戻されたものだそうである。そんな絵の中の人たちは、異国で



川崎町長、藤田教育長とともに菊池さんご夫妻

どの様な生活を送り、今私たちをどの様に見ているのであろうか。願わくは、まだ世界の何処かで眠り続けている多くの「江戸」の人たちを掘り起こし、私たちに会わせて頂きたい、と思うのである。

入館者数25万人達成

去る9月25日、入館者数が25万人を達成しました。25万人目となったのは、宇都宮市から訪れた菊池節子さんです。菊池さんには、記念品と花束が贈られました。

菊池さんは、「驚きました。馬頭町はのんびりとしていて、車に乗っていても気持ちがいいですね。」と話されていました。企画展ごとにご来館いただいているそうです。

美術館の入館者は平成12年11月の開館以来、平成13年6月に10万人、14年9月に20万人、開館から3年を待たずに25万人を超えたことになりました。

友の会見学会に参加して

友の会会員 川野辺 幸子(水戸市)

馬頭町広重美術館の落ち着いた佇まいは、他に類をみない美しさがあると思います。私は先ず、馬頭町広重美術館の建物に惹かれて広重を知ることになりました。知るようになったと言っても、たくさんの方の浮世絵師の総称としての広重です。ですから、浮世絵の知識はほとんどないと

言って過言ではありません。そして今回、東海道広重美術館見学にあたり、自分の感性でなにを感じとれるか、友の会のメンバーとはどのような喜びを共有できるかが、私のポイントとなりました。

東海道広重美術館では、71枚の木版を一枚ずつ鑑賞することが出来ました。

観ていくうちに、英泉の人物描写のおもしろさ、動物特に馬の描きの巧みさ、比べて広重は、自然描写がゆつくりでおおらかでほっとするような美しさがあることに気づきました。このような、異なった二つのタイプの発見は私の深い喜びとなりました。



東海道広重美術館前にて

した。広重のおおらかな暖かさは木版に後押しされています。また逆に木版は、広重によって更に価値を高められているのかもしれない。と素人の私には感じられます。「木曾海道六拾

九次の内」は、二人の画家の作成ということで、知識の乏しい私にでも比べやすく、この事は私の浮世絵理解のスタートには、大変幸いな事でした。満たされた時を過ごすことができ、とてもよい思い出になりました。

ホテルの部屋の窓からは駿河湾が望め、穏やかな海と遠く伊豆半島がかすんで見えました。4人のルームメイトは気ままに昔からの知り合いのように気兼ねもなく、よい感じで過ごすことが出来ました。

弥次さん喜多さんもこんなふうに旅をしたのかな。そうそう、英泉や広重も私達と同じように旅を楽しんだのでしょうか。

久能山東照宮にて詠む

友の会会員 影沢 吉(馬頭町)

家康公の手形の指の長くして
触るればぬくみ伝はることし
枕を頼り手摺に頼りて
家康公の神廟前に深く礼せり

友の会PR活動行われる

去る10月26日と11月2日の両日、友の会役員によるPR活動が「道の駅ばとう」にて行われました。2日には抽選会を行い、当たった方には名所江戸百景シート入りのフォトフレームが渡されました。

今後も、友の会として美術館のPR活動を行っていく予定です。



道の駅ばとうにて

今後の展覧会予定

企画展「江戸から東京へ展」

「浮世絵は明治まで生きていた」

●会期

平成15年11月29日(土)～12月23日(火)

浮世絵の技術は幕末から明治にかけて最高度に発達しました。しかし明治時代になると外国から写真や石版画の技術が輸入され、浮世絵は急速に衰えます。江戸時代には幕府の取り締まりにも屈しなかった浮世絵界ですが、明治期に西欧から輸入された文化に翻弄されてしまいます。本展覧会では幕末と明治時代の浮世絵を対比し、浮世絵師がいかに時代に対応しようと努力し、さまざまな分野で腕を振るったかを紹介します。

企画展「江戸から東京へ展 浮世絵は明治まで生きていた」

11月29日(土)～12月23日(火)
ミュージアムトーク=11月29日(土)・12月6日(土)・12月20日(土)

企画展「東海道に見る旅の風景展」

平成16年1月3日(土)～2月1日(日)
ミュージアムトーク=1月10日(土)・1月17日(土)・1月24日(土)

企画展「青木コレクション 国芳とその弟子たち展」

2月5日(木)～3月7日(日)
ミュージアムトーク
2月7日(土)・2月14日(土)
2月28日(土)

企画展「浮世絵ってなんだ?展」

3月11日(木)～4月11日(日)
ミュージアムトーク=3月13日(土)・4月3日(土)
講演会=3月20日(土)「浮世絵入門」当館学芸員 市川信也

美術館予定カレンダー (カレンダーと展示案内の帯の色が同じになっています)

2003年	12	2004年	1
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6	1 2 3	4 5 6 7 8 9 10
7 8 9 10 11 12 13	7 8 9 10 11 12 13	4 5 6 7 8 9 10	11 12 13 14 15 16 17
14 15 16 17 18 19 20	14 15 16 17 18 19 20	11 12 13 14 15 16 17	18 19 20 21 22 23 24
21 22 23 24 25 26 27	21 22 23 24 25 26 27	18 19 20 21 22 23 24	25 26 27 28 29 30 31
28 29 30 31	28 29 30 31	25 26 27 28 29 30 31	
2	3		
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土		
1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6		
8 9 10 11 12 13 14	7 8 9 10 11 12 13		
15 16 17 18 19 20 21	14 15 16 17 18 19 20		
22 23 24 25 26 27 28	21 22 23 24 25 26 27		
29	28 29 30 31		
4			
日 月 火 水 木 金 土			
1 2 3			
4 5 6 7 8 9 10			
11 12 13 14 15 16 17			
18 19 20 21 22 23 24			
25 26 27 28 29 30			

●講演会(無料)

●ミュージアムトーク(展示解説)

●休館日

●開館日

馬頭町広重美術館友の会ニュース 第6号
平成15年11月30日発行 編集発行/馬頭町広重美術館友の会
〒324-0613 栃木県那須郡馬頭町馬頭116-9
TEL 0287-621169 FAX 0287-627177
http://www.hiroshige-bato.tochigi.jp/

※ミュージアムトークは午後1時30分から

●講演会「浮世絵入門」

当館学芸員 市川信也
平成16年3月20日(土)

●ミュージアムトーク(展示解説)

当館学芸員 平成16年3月13日(土)
4月3日(土)

各時代に活躍した絵師や描かれた風俗のほか、肉筆画や版画等の種類、製作工程など浮世絵の基本的な事項もあわせてご紹介いたします。

企画展「浮世絵ってなんだ?展」

●会期

平成16年3月11日(木)～4月11日(日)

江戸時代、浮世絵界では鳥居清長、喜多川歌麿、東洲斎写楽、勝川春章、葛飾北斎、歌川広重など著名な浮世絵師が輩出され、西欧ではジャポニスムが生まれました。本展覧会では初期から終焉に至る浮世絵史の流れを概観し、各時代に活躍した絵師や描かれた風俗のほか、肉筆画や版画等の種類、製作工程など浮世絵の基本的な事項もあわせてご紹介いたします。

撮影した大正時代の写真を並べて展示いたします。江戸から大正へ、東海道の風景の変遷をお楽しみ下さい。

●ミュージアムトーク(展示解説)

当館学芸員 平成16年1月10日(土)・17日(土)・24日(土)

企画展「青木コレクション」

国芳とその弟子たち展

●会期

平成16年2月5日(木)～3月7日(日)

古くから東海道は軍事用の幹線道として、また商業路として知られていました。徳川家康が江戸に幕府を開いてからは急速に整備されていきました。道中の安全性が高くなると一般の旅人が多くなり、さまざまな道中記や街道絵が出版されるようになりました。本展覧会では歌川広重「東海道五十三次之内」(俗に「行書東海道」と東海道を

紹介します。

●ミュージアムトーク(展示解説)

当館学芸員 平成15年11月29日(土)・12月6日(土)・20日(土)

企画展「東海道に見る旅の風景展」

●会期

平成16年1月3日(土)～2月1日(日)